

東海LLP

災害ゼロ達成目指す

安全大会で重点事項宣言



東海地区コンクリート圧送有限責任事業組合（東海LLP、長谷川員典理事長）は2月18日、名古屋国際会議場白鳥ホールで安全大会と全国統一安全・技術講習会を開いた。LLP会員企業の従業員ら約400名に加え、大手ゼネコンの安全衛生担当者も出席した。長谷川理事長はビデオメッセージで、昨年6月にゼネコンの監督、技術者を対象に

LLP会員企業の従業員ら約400名に加え、大手ゼネコンの安全衛生担当者も出席した。長谷川理事長はビデオメッセージで、昨年6月にゼネコンの監督、技術者を対象に同LLPが開いたコンクリート圧送計画講習会に300名の参加があったことを報告し、「我々もしっかりと勉強してレベルアップを図り、安全衛生および技術に関する

組んでいきたい」と述べた。安全大会では目下保行理事が安全衛生基本方針について「品質・安全・環境」の理念は建設業の一翼を担う我々が、法令順守や社会的な責任を果たして行く上で、最も重要な使命だ。組織的な安全衛生活動を積極的に推進し、現場従事者の安全意識の高揚と組合員企業の安全技術の向上を図り、「災害ゼロ」の達成と健全で信頼される企業集団を目指す」とした。そのうえで、「特定自主検査と日常検査の実施」、「安全衛生および技術に関する

教育講習会の開催」、「ブーム先端からの縦配管を継続して禁止する」、「交通事故防止の徹底」の4つを重点実

施事項に定めた。その後、今年度の登録コンクリート圧送基幹技能者を取得した河崎商店の小出知也氏が安全宣言を行った。

安全講話として村井労働安全コンサルタント事務所村井徹夫氏が「不安全行動とヒューマンエラー」の題で講演した。人間の行動災害は「不安全行動」と「ヒューマンエ

ラー」と「ヒューマンエラー」に分かれ、この2つの原因で労働災害の多くを占めていると説明。コンクリート打設に関する災害事例も紹介した。

統一安全技術講習会では日本大学の中田善久教授が「圧送技能者の資格取得に向けて施工管理者を対象とした技術講習会の実施報告した。同講習で

行なった模擬試験も解説した。